論文の種類（原著、報告、総説、解説、症例報告、紹介）の中から１つ選択

表題：

所属：

著者名：

住所（郵便番号含）：

電話：

FAX：

E-mail address：

キーワード（原著は5語以内，その他は3語以内）：

別刷り希望部数：　　部

青字の説明文は削除してください。

要旨（邦文の原著は900字以内，原著以外は200～600字で記載、英文は500語）

【背景】ここから記載する

【目的】ここから記載する

【方法】ここから記載する

【結果】ここから記載する

【結論】ここから記載する

本文(原著・総説の場合，邦文論文では10,000字以内，英文論文では5,000語以内(図表，文献を含む)．その他の論文は，邦文論文は6,600字以内，英文は3,300語以内(図表・文献を含む)．)

(邦文原著の場合は，はじめに(目的を含む)，方法，結果，考察，結論，引用文献，図表，英文要旨の順とする．英文論文や他の論文は概ねこれに準ずる．※倫理審査委員会等の承認を受けている場合は本文中にその旨と承認番号をご記載ください．)

はじめに

 ここから記載する

方法

 ここから記載する

結果

 ここから記載する

考察

 ここから記載する

結論

 ここから記載する

利益相反に該当する事項はない。(該当する事項がある場合上記を削除し適宜ご記載ください)

文献

1. 深澤佳代子, 西村チエ子: 手術室における看護事故の分析. 日本手術医学会誌 1997; 18: 425-428.

【文献の記載については以下をご参照ください．(投稿規定より抜粋)】

引用文献は原則として20編以内とし，引用順に本文の末尾に一括し，バンクーバー形式（Br Med J 1988； 296： 401-405.）で記載する。邦文誌名は省略せず正式名称を用いる。英文誌名は Index Medicus に従う。著者名が６名以内の場合は全員を記載し，７名以上の場合は初め３名を記載し，以下は ”ほか”，または “et al.” とする。著者のイニシャルの後のピリオドは不要である。引用文献における英文誌名や年，巻，頁の英数文字と句読点は，半角文字を用いる。WEBサイトから引用する際は， URLと参照日（西暦年月日）も記載する。

（例）

1. 深澤佳代子, 西村チエ子: 手術室における看護事故の分析. 日本手術医学会誌 1997; 18: 425-428.
2. 尾家重治: 消毒・滅菌に必要な器材, 小林寛伊編集, 厚生労働省保健医療局結核感染症課監修. 消毒と滅菌のガイドライン. 東京: へるす出版 1999; 116-126.
3. Horan TC, Gaynes RP, Martone WJ, Jarvis WR, Emori TG: CDC definitions of nosocomial surgical site infections1992: a modification of CDC definitions of surgical wound infections. Infect Control Hosp Epidemiol 1992; 13: 606-608．
4. Platt R: Guidelines for perioperative antibiotic prophylaxis. In: Abrutyn E, Goldmann DA, Scheckler WE, eds. Saunders Infection Control Reference Service. Philadelphia: W. B. Saunders Co 1997；229-234．
5. 厚生労働省. 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス.
6. https://www.mhlw.go.jp/content/000769923.pdf （2021年7月12日閲覧）

図表タイトルと説明文

(邦文原稿の図表とその説明は邦文とする。図表は１ページに１つ。図表のカラーは可)

図1　タイトルと説明文

図2　タイトルと説明文

表1　タイトルと説明文

表２　タイトルと説明文

英文要旨（原著のみ必要，500語以内．表題，著者名，所属，住所，要旨の順で記載する．）

Title

Yoko Tanaka1, Taro Yamada2,

Operating Room, X Hospital1

Department of Anesthesia, X Hospital2

1-1-1, X cho, Y ZZZ-ZZZZ, Japan1,2

Abstract

Background:

Results:

Conclusion:

Key words: A, B, C,